

東京医科歯科大学 外科専門研修プログラム (サブスペシャリティ連動型)



2018年5月9日作成 第4版

東京医科歯科大学外科専門研修プログラム管理委員会編

目次

1. 東京医科歯科大学 外科専門研修プログラムについて	3
【目的と使命】	3
【特徴】	3
多彩で偏りのないプログラム	3
大学の垣根を越えた専攻医応募	3
豊富な連携施設群	3
メンター制度	4
研修ログ	4
サブスペシャリティ領域の専門医プログラムとの連動について	5
大学院入学について	5
2. 研修プログラムの施設群	5
3. 専攻医の受け入れ数について	8
4. 外科専門研修について	8
1) プログラムの概要	8
消化器・一般外科コース	10
心臓血管外科コース	12
呼吸器外科コース	14
外傷・救急外科コース	16
2) 年次毎の専門研修計画	18
3) 研修の週間計画	21
4) 研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール	21
5. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）	22
6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）	22
7. 学問的姿勢について	23
8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）	23
9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方	24
1) 施設群による研修	24
2) 地域医療の経験（専攻医研修マニュアル-経験目標3-参照）	24
10. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル-VI-参照）	25
11. 専門研修プログラム管理委員会について	25
12. 専攻医の就業環境について	26
13. 修了判定について	26

14. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件.....	27
15. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について.....	27
16. 専攻医の採用と修了.....	28
採用方法.....	28
研修開始届け.....	28
修了要件.....	28
17. 修練施設紹介.....	29
18. 専攻医体験談.....	41



<東京医科歯科大学 外科専門研修プログラムグループ 2016年1月21日 撮影>

<問い合わせ先>

東京医科歯科大学外科専門研修プログラム管理委員会

電話：03-5803-5255（東京医科歯科大学消化器・一般外科総合医局）

メール：profsecretary.srg1@tmd.ac.jp

ホームページ：http://www.tmd.ac.jp/med/surg/index.html

見学、個別相談など随時受け付けます。

説明会の日時などホームページで告知いたしますのでご覧下さい。

1. 東京医科歯科大学 外科専門研修プログラムについて

【目的と使命】

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科）、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

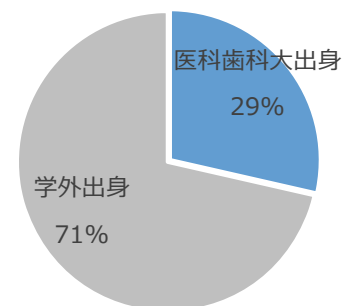
【特徴】

多彩で偏りのないプログラム

東京医科歯科大学外科専門研修プログラムは基幹施設の消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、救命救急センターと連携病院群が一体となって運営する外科専門研修プログラムです。将来のサブスペシャリティにも配慮し「消化器・一般外科コース」「心臓血管外科コース」「呼吸器外科コース」「外傷・救急外科コース」を用意しています。ただしサブスペシャリティに偏ることなく、将来のサブスペシャリティの基盤となる外科の専門的診療能力を習得することが本プログラムの第一の目的です。

大学の垣根を越えた専攻医応募

もともと東京医科歯科大学には出身大学を問わない自由な風土があります。これまでも我々の外科プログラムの入局者は全国から集まっております。



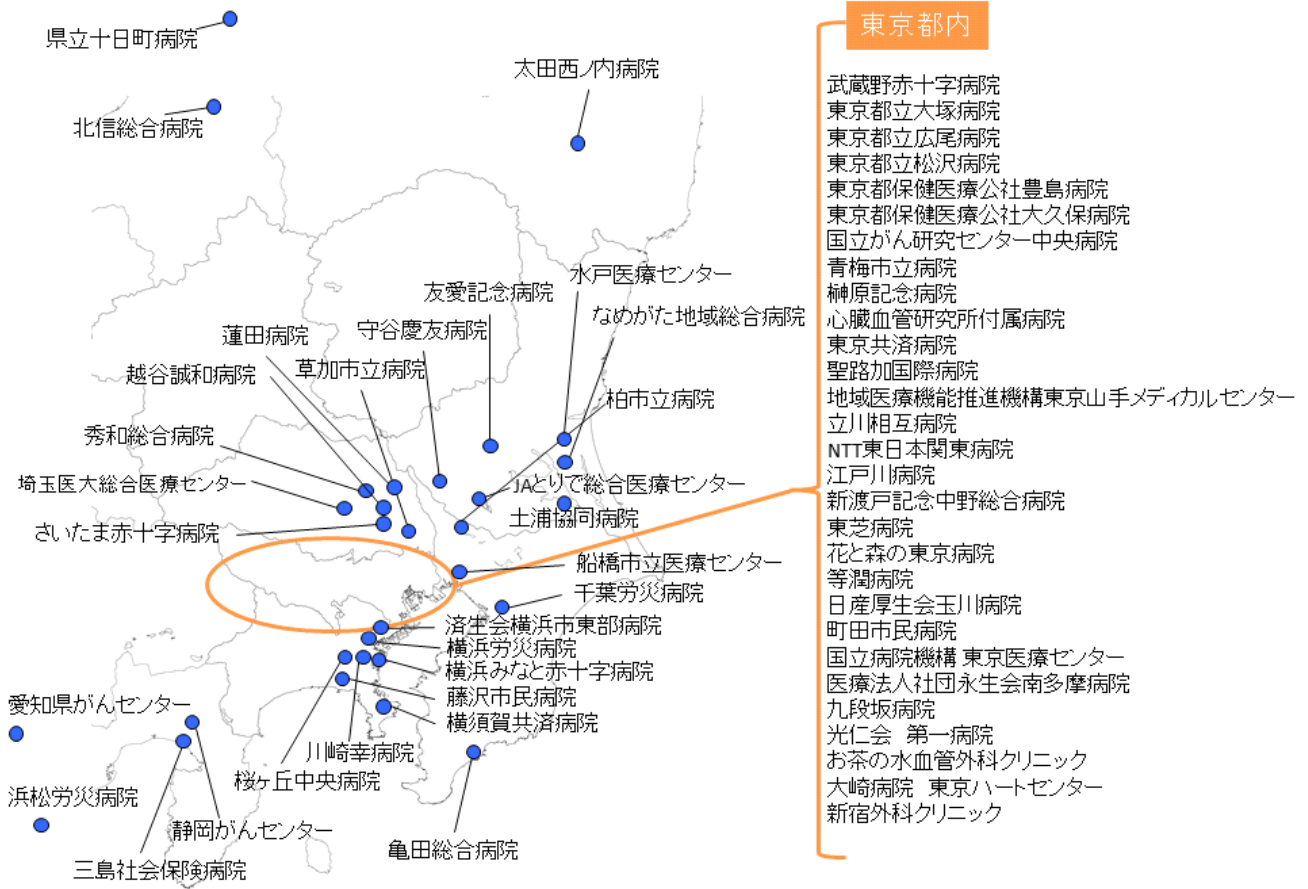
入局者割合（出身大学別2011～2015年度）

豊富な連携施設群

連携施設群は都内を中心に関東近郊に主に都市型の病院から、地域の基幹病院まで幅広い病院と連携しております。本専門研修プログラムが導入される前から大学医局を基幹として連携病院をローテーションし外科医を育てる土壌が確立されています。またサブスペシャリティの垣根を越えた研修も、以前から行っておりました。それらの点で、私どもの連携病院の1つの特徴として各連携病院の部長、および外

科スタッフは指導熱心で、外科医を育てるということに関して経験豊富であるということが挙げられると思います。

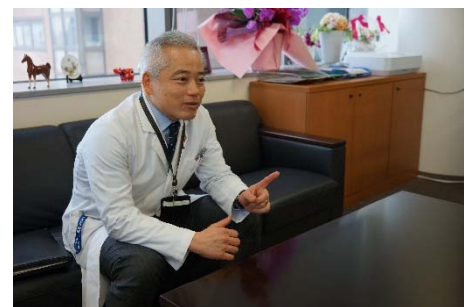
東京医科歯科大学 外科関連施設



メンター制度

研修メンター制度とは、職場の上司とは別に相談役となる先輩が専攻医をサポートする制度のことです。

基幹病院の専門研修指導医が研修メンターを担当し、一人一人の専攻医に個別に対応し、きめ細やかに研修をサポートします。研修の進捗状況や将来の進路、人間関係などを随時、相談することができます。



<メンター責任者 石川敏昭先生>

研修ログ

年に1回にプログラム研修管理委員会の代表者、研修メンターと専攻医が面談を行い、研修の到達度、今後の研修の希望などを聴取します。その際に手術経験数を集計し研修の進行状況を確認し、専攻医に十分な研修の機会を与えられているかを確認します。さらに、専攻医・施設指導医と双方向評価を行くことによって、専攻医、指導医のそれぞれのクオリティを高めていくことを目指します。

サブスペシャリティ領域の専門医プログラムとの連動について

年々サブスペシャリティの医療レベルは高度化し、専門医取得には相応の時間を要します。一方で大学院での研究や、留学などのキャリアプランを想定すると、外科専門研修からサブスペシャリティ研修へ効率よく、かつ濃厚に行われるようプログラムを設計する必要があります。基礎体力となる外科専門研修の重要性はもちろんのことですが、できるだけ早くからサブスペシャリティの専門分野も研修する必要があります。

東京医科歯科大学の提供する外科サブスペシャリティ領域専門研修プログラムは、本プログラムと連続し、最短で専門医が取得できるよう、現在準備が進められています。サブスペシャリティ専門医制度との連動を予定していますが、日本専門医機構からの詳細規則が近日示される予定なので、それに合わせてホームページ等で告知します。後のサブスペシャリティの各コースの紹介を参照してください。

大学院入学について

大学院入学は必須ではありません。外科を専攻するに当たっては、まずは外科医としての修練に専念していただきたいのですが、一方で学問的探究心を醸成することも大切です。専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけましょう。希望がある場合は、ぜひ基礎研究・臨床研究を本格的に行うために大学院にすすむことをお勧めします。

早くから大学院入学を希望する専攻医には3年次以降に大学院に進学するコースも用意します。臨床研究または学術研究・基礎研究を早くから開始する希望があり、かつ研究に専念したいという場合は3年次の6ヶ月の自由選択期間をそれに当てることも可能です。細かな規定に関してはp20「大学院コース」を参照ください。

大学院のアドミッションポリシー、大学院入試概要（募集要項）

⇒ <http://www.tmd.ac.jp/admissions/graduate-school/index.html>

2. 研修プログラムの施設群

東京医科歯科大学医学部附属病院と連携施設（60施設）により専門研修施設群を構成します。

本専門研修施設群では180名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

<専門研修基幹施設>

名称	都道府県	1:消化器外科,2:心臓血管外科,3:呼吸器外科,4:小児外科,5:乳腺内分泌外科,6:その他(救急含む)	1. 統括責任者名 2. 統括副責任者名
東京医科歯科大学医学部附属病院	東京都	1,2,3,4,5,6	1. 田邊 稔 2. 植竹 宏之 荒井 裕国 大友 康裕 大久保 憲一 工藤 敏文 中川 剛士 岡本健太郎

専門研修連携施設

No.		都道府県	1:消化器外科,2:心臓血管外科,3:呼吸器外科,4:小児外科,5:乳腺内分泌外科,6:その他(救急含む)	連携施設担当者名
1	総合病院土浦協同病院	茨城県	1,2,3,4,5,6	伊東 浩次
2	社会福祉法人 仁生社 江戸川病院	東京都	1,6	高橋 定雄
3	草加市立病院	埼玉県	1,2,5	星野 直明
4	公益財団法人日産厚生会玉川病院	東京都	1,2,3,5,6	川村 徹
5	秀和総合病院	埼玉県	1,5,6	中村 典明
6	武蔵野赤十字病院	東京都	1,2,3,5,6	加藤 俊介
7	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	福島県	1,2,3,4,5	山崎 繁
8	JAとりで総合医療センター	茨城県	1, 5	宇田川 勝
9	国家公務員法共済組合連合会東京共済病院	東京都	1,3,5,6	円城寺 恩
10	友愛記念病院	茨城県	1,3,5	加藤 奨一
11	東京都立広尾病院	東京都	1,2,3,4,5,6	小林 宏寿
12	公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会附属 榊原記念病院	東京都	2	高梨 秀一郎
13	医療法人 顕正会 蓮田病院		1,5	兼子 順
14	社会医療法人社団慈生会等潤病院		1.2.5	西 直人

15	東京医療生活協同組合 新渡戸記念 中野総合病院	東京都	1,5,6	大野 玲
16	医療法人社団 冠心会 大崎病院 東京ハートセンター	東京都	2	磯村 正
17	東京都保健医療公社大久保病院	東京都	1, 2, 5	菅野 範英
18	柏市立柏病院	千葉県	1、5、6	野坂 俊壽
19	長野県厚生農業協同組合連合会北信 総合病院	長野県	1, 2, 3, 4, 5	吉田 哲矢
20	公益財団法人東京都保健医療公社豊 島病院	東京都	1,5	安藤 昌之
21	東京山手メディカルセンター	東京都	1,3,6	森田 理一郎
22	船橋市立医療センター	千葉県	1	田中 元
23	独立行政法人 国立病院機構 東京 医療センター	東京都	1, 2, 3, 5, 6	磯部 陽
24	千葉労災病院	千葉県	1,3,5	宇田川郁夫
25	医療法人社団永生会 南多摩病院		1,2	井上 淳
26	国立研究開発法人 国立がん研究セ ンター中央病院	東京都	1,3,5,6	森田 信司
27	藤沢市民病院	神奈川県	1.2.3.4.5.6	山岸 茂
28	聖路加国際病院	東京都	1、2、3、4、5、6	鈴木 研裕
29	東京都立大塚病院	東京都	1,3,4,5	吉村 哲規
30	国家公務員共済組合連合会 横須賀 共済病院	神奈川県	1,2,3,4,5,6	牧田 哲
31	NTT東日本関東病院	東京都	1,2,3,4,5,6	針原 康
32	さいたま赤十字病院	埼玉県	1	加藤敬二
33	埼玉医科大学総合医療センター	埼玉県	1	石畝 亨
34	独立行政法人国立病院機構水戸医療 センター	茨城県	1,2,3,5,6	岡田晃穂
35	独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災病院	神奈川県	1,2,3,4,5,6	岡崎 靖史
36	済生会横浜市東部病院	神奈川県	1.2.3.4.5.6	江川 智久
37	医療法人社団哺育会 桜ヶ丘中央病 院	神奈川県	1	岩瀬 俊一
38	国家公務員共済組合連合会 九段坂 病院	東京都	1	長濱 雄志
39	静岡県立静岡がんセンター	静岡県	1,3,5	上坂 克彦

40	青梅市立総合病院	東京都	2,3	白井 俊純
41	社会医療法人社団 光仁会 第一病院	東京都	1	杉原 健一
42	社会医療法人社団正志会 花と森の東京病院	東京都	1	角崎 秀文
43	横浜国立大学附属赤十字病院	神奈川県	1, 2, 3, 4, 5, 6	下山 武彦
44	町田市民病院	東京都	2	八丸 剛
45	愛知県がんセンター中央病院	愛知県	1,3,5	坂倉 範昭
46	東京女子医科大学東医療センター	東京都	5	庄古 知久
47	東京都立松沢病院	東京都	1	多田 雅典
48	土浦協同病院なめがた地域医療センター	茨城県	1,4,5,6	平沼 進
49	医療法人 康麗会 越谷誠和病院	埼玉県	1, 5	井出 明毅
50	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	千葉県	1,2,3,4,5,6	松田 諭
51	お茶の水血管外科クリニック	東京都	2	廣川 雅之
52	新宿外科クリニック	東京都	1,2,6	高島 格
53	松戸市立総合医療センター	千葉県		
54	緑野会 東京品川病院	東京都		

3. 専攻医の受け入れ数について

本専門研修施設群の3年間NCD登録数は約60000例で、専門研修指導医は145名です。本年度の募集専攻医数は27名です。

4. 外科専門研修について

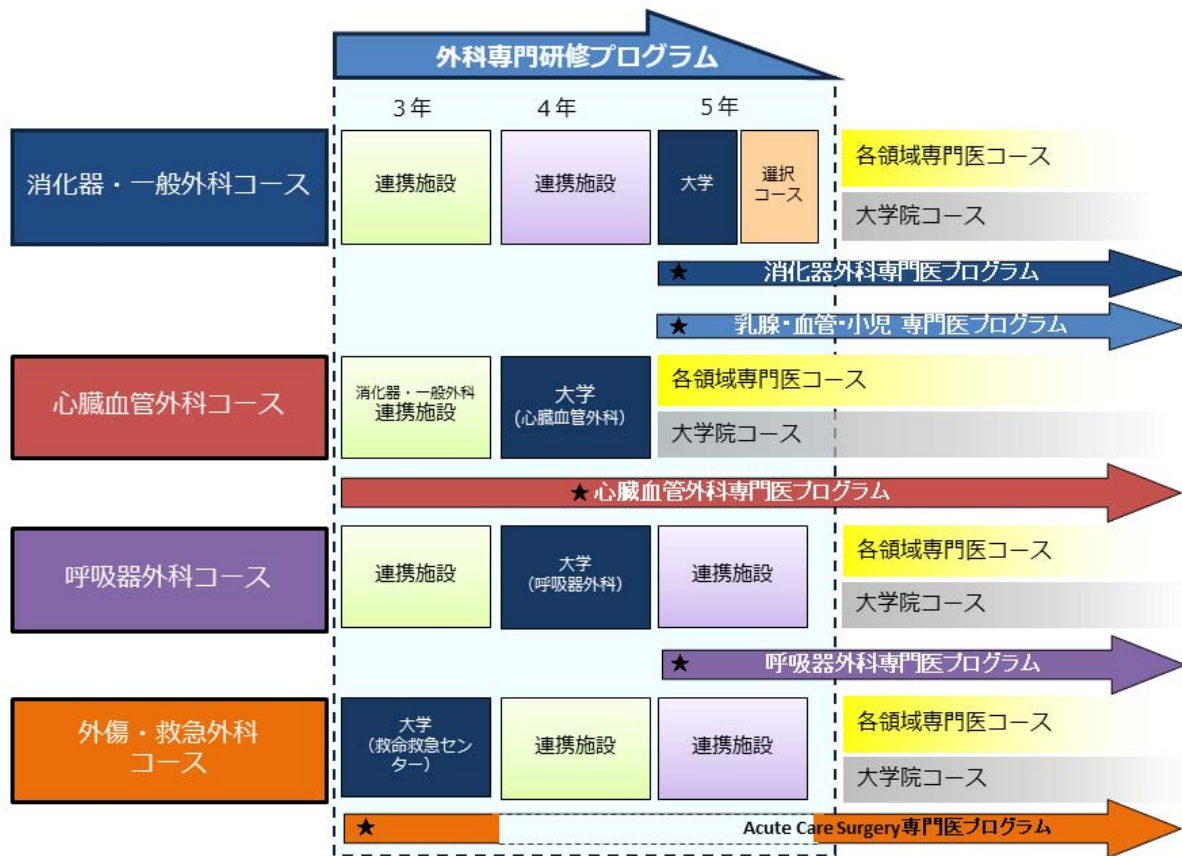
1) プログラムの概要

- 外科専門医は初期臨床研修修了後、3年（以上）の専門研修で育成されます。
3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行います。
専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 専攻医の将来専攻するサブスペシャリティの希望に従って「消化器・一般外科コース」「心臓血管外科コース」「呼吸器外科コース」「救急・外傷外科コース」の4つのプログラムを選択できます

す。ただし、いずれのコースもサブスペシャリティの修練を優先するのではなく、基本的な外科専門医としての修練を行うことが主眼であることに変わりありません。下記に各コースの概要を示します。

- 専門研修期間中に大学院へ進むことも可能です。大学院コースを選択して臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修期間として扱われます。
- 研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数が必要です。
- 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができます。（外科専門研修プログラム整備基準2.3.3 参照）

東京医科歯科大学 外科専門研修プログラム（サブスペシャリティ連動型）



☆乳腺外科は消化器・一般外科に含まれます。

★サブスペシャリティ連動を予定していますが、詳細は未定です（平成 29 年 9 月）。

消化器・一般外科コース

外科専門医取得後に消化管外科（食道・胃・大腸）、肝胆膵外科、乳腺外科、末梢血管外科、小児外科、腫瘍化学療法外科などのサブスペシャリティを志望する専攻医が対象です。外科専門研修の3年間は特定の領域に偏ることなく、ひろく外科専門医に求められるコアコンピテンシーを習得することが基本です。将来、いかなるサブスペシャリティを専攻するにしても、消化器・一般外科は特にジェネラルに全身管理をすることが求められ、手術手技だけでなく全身管理や、急性疾患・救急への対応、癌治療においては化学療法から緩和医療まで幅広い知識と技術が要求されます。専門臓器の希望がある専攻医には、その領域の専門研修指導医がメンターとなります。積極的に関連するセミナーや研究会への参加の機会を提供します。

- 外科基本手技ウェットラボセミナー（毎年5～6月）

毎年春に動物臓器を用いて外科基本手技の習得を目的としたウェットラボセミナーを行っています。日頃、疑問に思いながら手術現場で確認できないことを指導医に質問したり、新しい手技をトライしたり、外科医として始めたばかりの初心者も、2年次、3年次の専攻医にも役立つことがあります。実物臓器を用いた腸管の吻合モデルだけでなく、血管吻合も行います。また、腹腔鏡のドライラボも用意しており、体腔内縫合や結紮手技も指導いたします。



- 腹腔鏡下手術手技セミナー（毎年10～11月）

毎年秋に腹腔鏡下での手術手技向上を目的としたセミナーを開催しています。これは低侵襲医歯学研究中心が中心となって開催している若手・中堅の外科医を対象としたもので、大学内の先生はもちろん関連病院の先生も多く参加されます。トレーニング施設に1泊2日の日程で、昼は大動物モデルを使った腹腔鏡下の胃切除や大腸切除を行い、各方面のエキスパートを講師として招聘し、直接指導して



<富士宮で行われた第5回セミナーの集合写真 2015/10/3>

ただけるとあって大好評です。また、日本内視鏡外科学会の後援講習会でありますので、技術認定医申請の際にはポイントとして加算できるメリットがあります。夜は懇親会が催され、手術談義で毎回とても盛り上がっています。技術の習得と多くの先生と交流を持てるこのセミナーに是非参加していただければと思います。

● 自由選択期間があります

消化器・一般外科コースは3年次に6ヶ月間の自由選択期間を設けました。本プログラムの1つの特徴と言えます。受動的なローテーションでなく、能動的な専攻医の「やる気」に応えたいと考えています。例えば、消化器外科のサブスペシャリティを志している場合でも救命救急や外傷外科をもう少し重点的に研修したいという希望がある場合、3次救急を行っている高度救命救急センターをローテーションすることも可能です。他、がん専門病院などのハイボリュームセンターに1週間程度の短期ローテーションも用意しています。腹腔鏡手術を積極的に行っている施設へのローテーションや、日帰り手術クリニックの見学、関連施設のある外科部長の下で修練したいなど、本外科専門研修プログラムと連携病院群の枠組みの範囲内で可能な限り専攻医の選択を尊重します。

● 外科専門医取得後のキャリアプラン

外科専門医プログラム修了後は、希望のサブスペシャリティ（消化管・肝胆膵・乳腺・末梢血管・小児・腫瘍化学療法）の修練に入ります。消化器・一般外科の領域は広いので各々のサブスペシャリティのキャリアプランの詳細は割愛しますが、本専門医プログラム後も東京医科歯科大学のプログラムで継続することを希望される方は、外科専門医プログラム修了見込みであることを条件に希望に従って大学院、あるいは専門医コースに応募することができます。大学院も専門医を取得する修練と並行して研究を行う社会人大学院制度を選択することも可能です。

年々サブスペシャリティのレベルは高度化し、専門医取得には相応の時間を要します。また、この年代は大学院での研究、学位取得、留学などキャリア形成において重要な時期でもあり、外科専門研修からサブスペシャリティ研修へ効率よく、かつ濃厚に行われるようプログラムを設計する必要があります。

消化器・一般外科のサブスペシャリティ領域専門研修プログラムは、本プログラムと連動することを予定しています。日本専門医機構からの詳細規則が近日示される予定なので、それにあわせてホームページ等で告知します。



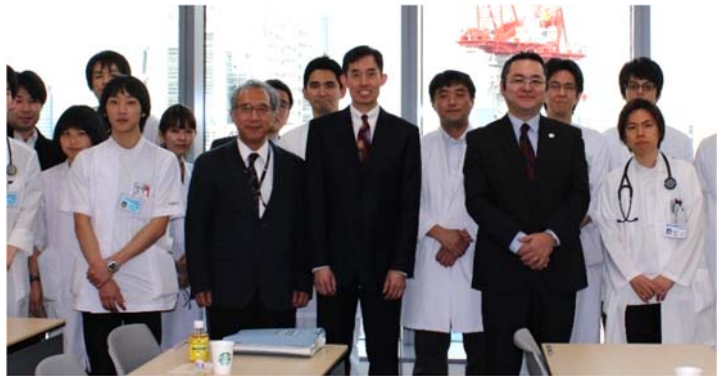
消化器・一般外科ホームページ : http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical_treat/gekasinryou.html

心臓血管外科コース

将来心臓血管外科を志望する専攻医が対象です。心臓血管外科は高い技術力を要し、新しい治療法が次々登場する進歩の早い診療科です。治療結果は患者さんの生命に直結するため、手術技量のみならず周術期の高度な全身管理の知識も必要とされます。優れた心臓血管外科医となるためには、全身疾患を診る経験や、消化器・一般外科・呼吸器外科など幅広い領域の基礎的な素養が基盤となります。当プログラムは、東京医科歯科大学を基幹施設として、地域医療の中核である大学関連病院、さらに首都圏近郊の有数の循環器疾患専門病院が連携して、優良な外科専門医を育成することを目的としています。3年間の研修では、外科専門医に求められるコアコンピテンシーを習得しつつ、将来心臓血管外科医となることを考慮した経験を積めることが配慮され、4年目以降の心臓血管外科専門医研修へのシームレスな連動が保障されます。専攻医には、習得段階に応じて次のステップの臨床経験を積み手術手技を学べるようメンターによるきめ細かい指導が行われ、研修の早い時期から学会・論文発表などの機会が与えられます。医学博士取得を希望される方には、外科医の修練を積みながら大学院教育を受けられる社会人大学院コースも用意されています。また、本コースのプログラム責任者である荒井教授は、心臓血管外科専門医認定機構委員・心臓血管外科専門医試験問題委員長を務めており、学会をリードする立場で新専門医制度の構築に直接関わっております。このように本プログラムは、外科医としての技能・知識・哲学をバランス良く兼ね備えた優良な外科医を育成するための様々な工夫がなされております。

● 国際交流

東京医科歯科大学は文部科学省からスーパーグローバル大学（全国で11大学のみのトップ指定校で世界レベルの教育研究を行う）の指定を受けており、国際化に力を入れています。心臓血管外科では、年2-3回インターナショナルセミナーを開催し、海外のトップクラスの心臓外科医（米国・スタンフォード大学の



Joseph Woo 教授、オランダ・ライデン大学の Robert J.M. Klautz 教授、カナダ・ロンドンヘルスサイエンスセンター Bob B Kiaii 教授等）を招聘しています。英語による学術講演のみならず少人数グループで最新の手術手技の徹底討論が行われます。また、タイのマヒドン大学等からの海外の専攻医の受け入れや本学専攻医の海外短期留学も積極的に行い、国際的視野を持った外科医の育成も目指しています。

- 心臓手術テクニックセミナー

心臓手術の技術習得には Wet Lab や Dry Lab が既に多くの施設で導入されています。私どもの施設では、毎月行われる Wet Lab に加え、年に 1 回、専攻医の心臓手術の知識、技術水準向上を目的としたテクニックセミナーを開催しています。本セミナーでは、Wet Lab や Dry Lab のみでは体験することのできない実際の手術の緊迫感やダイナミズムを学ぶことができます。本セミナーには、将来心臓血管外科を志す専攻医は勿論のこと、消化器外科など心臓血管外科コース以外の専攻医も自由に参加できます。



セミナー第 1 部では、東京医科歯科大学内の大型動物実験施設で行われるライブ心臓手術の映像が学内の講義室に中継され、指導医の解説・ミニレクチャーを受けます。大型動物手術室との双方向通信で、臨床の手術現場では確認できない疑問点や手技のピットフォールを術者と直接討論しながら学びます。

セミナー第 2 部では、第 1 部で学んだ知識や技術を、ブタ心臓標本を用いた Wet Lab で直ちに実践します。各テーブルには各々、第一線の現場で活躍中の大学・関連病院の指導医が配置され、マンツーマンで密度の濃い指導を受けることができます。



- 外科専門医取得後のキャリアプラン

本プログラムを修了し、外科専門医取得後も東京医科歯科大学の研修プログラムで心臓血管外科医を目指す方は、引き続き心臓血管外科専門医研修プログラムへ進み大学および複数の連携施設をローテーションすることで、シームレスで効率的な研修を受けることができます。将来は連携病院への就職から大学教授への道（本学心臓血管外科より既に 6 名の教授を輩出）まで幅広い選択肢が用意されています。

この心臓血管外科コースを選ばれた皆さんが、いずれ将来の日本をリードする外科医として成就し、国際的に活躍されることを願ってやみません。

心臓血管外科ホームページ : <http://www.tmd-cvs.jp>

呼吸器外科コース

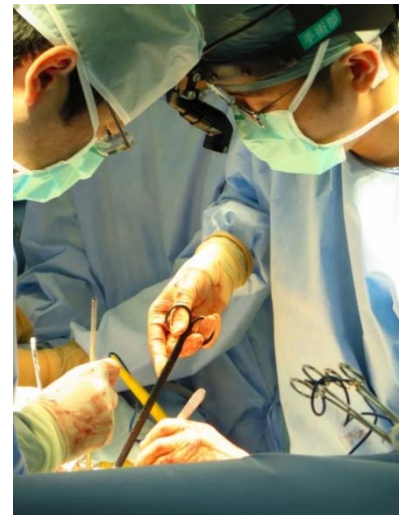
将来、呼吸器外科専門医を志す専攻医が対象です。呼吸器外科では原発性肺癌・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍・重症筋無力症・胸壁腫瘍などの呼吸器外科治療全般を行います。現在、日本では肺癌の発症率の上昇と画像診断の進歩とともに肺癌切除症例数は年々増加、呼吸器外科専門治療の需要が増大し、呼吸器外科専門医の養成が急務です。また、従来は開胸下に直視で行っていた手術も、近年は低侵襲手術としてモニターを使用した完全胸腔鏡下に行うようになり手術技術の進歩も急速に発展しており、呼吸器外科手術件数の半数以上を占める肺葉切除術・肺区域切除術も当科では完全胸腔鏡下手術を取り入れトレーニング可能です。

東京医科歯科大学呼吸器外科は、呼吸器外科専門医をめざす医師を出身大学に関係なく広く受け入れ、日本の呼吸器外科臨床を支える人材を育成するとともに、国際レベルでの臨床と研究の発展に寄与する人材の養成を目指しています。

2年間の初期研修終了後、まず東京医科歯科大学外科関連施設での一般消化器外科研修を行い、外科専門医取得に十分な症例を経験します。

続いて東京医科歯科大学呼吸器外科にて呼吸器外科研修を行います。指導医3名のもと1チームで診療を行っていますので常に情報を共有でき、いろいろな疑問点はその場で解決していきながら知識・技術を習得、年間300例を超える手術症例を経験できます。研修開始から1-2か月で胸腔鏡操作の習得後、胸腔鏡下肺部分切除術の術者、6か月ごろから胸腔鏡下肺葉切除術の術者を指導医の下行い(写真①)、4年目の1年間で40例以上の術者を東京医科歯科大学で行えます。

学会活動も呼吸器外科学会・肺癌学会・胸部外科学会・呼吸器内視鏡学会など各学会の地方会、総会での演題発表、月一回の研究会への発表も行えます。これら研究会・学会で発表した内容はその後、論文作成(邦文・英文)を指導します。



写真①

東京医科歯科大学呼吸器外科は充実した関連病院との連携があり、5年目頃からこれら関連病院でさらなる幅広い臨床および研究の機会を得ることが可能です。

- 呼吸器外科基本手技ドライラボセミナー(随時)

呼吸器外科医局には実際に手術で使用する手術用具が保管しており、直視下・胸腔鏡下による縫合などの手術手技トレーニング・気管支鏡トレーニングも医局にて随時可能です。

● 呼吸器外科基本手技ウェットラボセミナー（通年 2か月に一度）

呼吸器外科医のトレーニングでもっとも重要なことは、非常に損傷しやすい肺動脈の丁寧かつきれいな剥離です。基本的に鉗による鋭的な剥離を習得していく必要があります。これにより指導医の元、安全な肺葉切除を完遂できます。

呼吸器外科では、2か月に一度のブタ心肺ブロックを使用した wet labo（写真②③）を定期的に行い、血管鞘の剥離トレーニングを指導医の元、集中的に行うことで実際の手術で生かすようにしています。

また、局所進行がんの手術として、気管気管支形成・肺動静脈形成があります。advanced course として引き続き、これら気管気管支形成・肺動脈形成の手術手技をトレーニングできます。



写真②



写真③

● 胸腔鏡下手術手技セミナー（毎年1～2回）

胸腔鏡下手術手技向上を目的としたセミナーを開催しています。若手・中堅の外科医を対象としたもので、大学内の先生はもちろん関連病院の先生も多く参加されます。都内トレーニング施設にて週末に大動物を使った胸腔鏡下肺葉手術を基本とし、wet labo でもトレーニングした気管気管支形成・肺動脈形成術、さらには自家肺移植をトレーニングできます。技術の習得に加え、多くの先生と交流を持つことができます。

● 外科専門医取得後のキャリアプラン

引き続き呼吸器外科トレーニングを行いながら、大学院、あるいは専門医コースに応募することができます。



呼吸器外科ホームページ：http://www.tmd.ac.jp/medhospital/medical_treat/kokyu-geka.html

外傷・救急外科コース

近年、外科の臓器別診療による専門性の細分化により、重症多発外傷や重症敗血症を伴う急性腹症などの患者への初期対応・手術・集中治療を迅速かつ適切に対応できる外科医が減少しています。米国では2005年より米国外傷外科学会（The American Association for the Surgery of Trauma; AAST）にて Acute Care Surgery という “Trauma Surgery”, “Emergency General Surgery”, “Surgical Critical Care” を一体として取り扱う新たな外科領域が推奨されています。日本においてもこの概念を取り入れ、2009年に日本 Acute Care Surgery 学会（当時、研究会）が設立され、われわれの教室が事務局となっています。当救命救急センターでは、一部の専門症例を除き、外傷・救急外科疾患に対する術前検査、手術、術後管理（集中治療管理）を外科専門医・救急科専門医・集中治療専門医のもと行っています。現在、扱っている疾患は、胸部外傷（心、肺、大血管など）、腹部外傷（肝、脾、脾、腎、腸管・腸間膜など）、腹部大動脈瘤破裂・急性虫垂炎、胆のう・胆管炎、消化管穿孔、壊死性筋膜炎などの軟部組織重症感染症などで、手術件数も年々増加傾向にあり年間270例程度となっています。腹腔鏡手術件数も増加してきており、内因性疾患（虫垂炎、胆嚢炎、消化管穿孔など）や一部の外傷疾患（刺創など）に対し行われ、総手術件数に対する割合も本年度は10%を超えています。日本内視鏡外科学会技術認定医、院内内視鏡外科技術認定医を取得し安全に行っています。多くの緊急手術は院内の手術室で手術が行われていますが、手術室まで間に合わない症例、たとえば大動脈瘤破裂による出血性ショックや大腸穿孔による敗血症性ショック、外傷出血性ショック患者などのバイタルの不安定な患者様に対しては救急室の初療室にある手術室で手術、処置を行っています。



外傷・救急外科医育成コースでは、1年間の大学勤務で外傷・救急外科・集中治療管理の修練の後、2年間外科連携施設に出向し、十二分な症例数の外科研修を行い、外傷・救急外科に対応できる外科を養成しています。

- Japan Advanced Trauma Evaluation and Care; JATEC（年1回 4月頃）

http://www.jtcr-jatec.org/index_jatec.html

JATECは「外傷初期診療ガイドライン」に基づいて標準初期診療手順が実践できるようになることを目標としたトレーニングコースです。コースは、2日間にわたり開催しており、1日目の技能実習では、外科的気道確保など外傷蘇生に必要な技術を習得、さらに、X線や頭部CTなどの読影法を実際の臨床例を素材に学びます。2日目には、初日に学習した各種技能や診察の手順を基本にして、模擬診療を行います。外傷患者の様々なシナリオが用意されており、臨床に即した救急の医療現場を体験することが可能となっています。コースの最後には、OSCE、ケーススタディによる討論、および筆記試験により、コースの達成度が評価される。このコースでは、ムラージュされた精巧な人形を使用し、実際の医療機器や医療材料を使用するため、臨場感あふれる臨床現場を経験することができます。

当センターではコースを年1回開催しています。外科専門医取得のための単位にも含まれる予定となっています。



- Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care; JPTEC (年2回 9, 2月頃) <http://www.jptec.jp/>
JPTECとは、外傷現場において適切かつ迅速な観察を行い、緊急性を判断し、生命危機に関わる処置のみを行い、ただちに現場を出発し、また適切な処置が行える医療機関に、適切な搬送手段を用いて早期に搬入する方法を学ぶための教育プログラムとなっております。

- 外傷外科指南塾 (年数回) <http://www.jsacs.org/special/?id=13560>

当科が中心に開催をおこなっている外傷の手術に関するセミナーです。本セミナーでは本邦を代表する外傷外科医により外傷外科手術のノウハウを学ぶことができるとともに、日頃の外傷診療のディスカッションをする格好の機会となっております。若手にとってもある程度熟練した外科医にとっても有用なセミナーです。新専門医制度における外科専門医取得のための単位にも含まれる予定となっております。



- 海外の外傷のハイボリュームセンターの見学 (年1回程度)

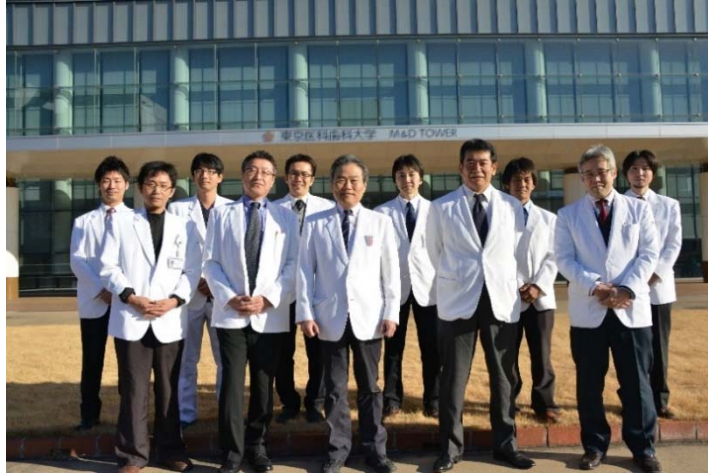
外傷のハイボリュームセンターである LA County Hospital や UC San Diego での病院見学、カンファレンスの参加により世界レベルの Acute care Surgery を学ぶことができます。



UC San Diego Level I Trauma Center

- 外科専門医取得後のキャリアプラン

本外科専門医プログラム修了後のキャリアプランの概要をお示しします。外科専門医取得後に救急科専門医を取得する必要があります。優れた Acute care surgeon は、外科専門医を土台とし、さらに救急科専門医の診療能力を持たなければなりません。救急科専門医取得後は、さらに外傷・救急外科の経験を積み、日本 Acute Care Surgery 学会認定外科医の取得を目指します。



ホームページ : <http://www.tmd.ac.jp/accm/index.html>

2) 年次毎の専門研修計画

- ・ 専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。
- ・ 専門研修1年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に行われるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- ・ 専門研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。
- ・ 専門研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。

東京医科歯科大学外科研修プログラムでの3年間の施設群ローテーションにおける研修内容と最低限の目標としての経験症例数を下記に示します。想定される経験症例数は下記より多いと思われます。東京医科歯科大学外科研修プログラムの研修期間は3年間としていますが、習得が不十分な場合は習得できるまで期間を延長することになります。

【年次毎の目標症例数】

消化器・一般外科コース

- ・ 専門研修1年目
連携施設群のうちいずれかに所属し研修を行います。
一般外科
経験症例200例以上（術者60例以上）
- ・ 専門研修2年目
連携施設群のうちいずれかに所属し研修を行います。
一般外科/救急
経験症例400例以上/2年（術者120例以上/2年）
- ・ 専門研修3年目
原則として東京医科歯科大学医学部附属病院で研修を行います。
不足症例に関して各領域をローテートします。

心臓血管外科コース

- ・ 専門研修1年目
連携施設群のうちいずれかに所属し研修を行います。
一般外科/救急
経験症例200例以上/1年（術者60例以上/1年）
- ・ 専門研修2年目
東京医科歯科大学外科に所属し研修を行います。
経験症例250例以上/2年（術者70例以上/2年）
- ・ 専門研修3年目
連携施設群のうちいずれかに所属し研修を行います。
一般外科/救急
経験症例400例以上/3年（術者120例以上/3年）

呼吸器外科コース

- ・ 専門研修1年目
連携施設群のうちいずれかに所属し研修を行います。
一般外科/救急
経験症例200例以上/1年（術者60例以上/1年）
- ・ 専門研修2年目
東京医科歯科大学外科に所属し研修を行います。

経験症例250例以上/2年（術者70例以上/2年）

- ・ 専門研修 3年目

連携施設群のうちいずれかに所属し研修を行います。

一般外科/救急

経験症例400例以上/3年（術者120例以上/3年）

外傷・救急外科コース

- ・ 専門研修1年目

東京医科歯科大学救命救急センターに所属し研修を行います。

経験症例50例以上（術者10例）

- ・ 専門研修 2年目

連携施設群のうちいずれかに所属し研修を行います。

一般外科/救急

経験症例250例以上/2年（術者70例以上/2年）

- ・ 専門研修 3年目

連携施設群のうちいずれかに所属し研修を行います。

一般外科/救急

経験症例400例以上/3年（術者120例以上/3年）

【サブスペシャリティ領域などの専門医連動コース】

東京医科歯科大学外科専門研修プログラムは将来のサブスペシャリティの基盤となる外科の修練を3年間行う事を原則とします。一部の期間をサブスペシャリティ領域（消化器外科，心臓血管外科，呼吸器外科，小児外科）または一般外科関連領域（乳腺など）の専門研修に重点をおくことも想定しています。近日、各サブスペシャリティ領域の連動に関しての規定公表される予定ですので、それに関してはホームページ上で告知いたします。

【大学院コース】

3年次に大学院に進学し，臨床研究または学術研究・基礎研究を開始する希望があり，かつ研究に専念したいという希望がある場合は3年次の6ヶ月の自由選択期間をそれに当てることとします。また研究専任となる条件として，それまでに外科専門医資格を取得するに足る手術症例を経験し，臨床能力を習得していることをプログラム統括責任者が認めることを条件とします。研究専任となる基礎研究は6か月以内とします。

大学院のアドミッションポリシー、大学院入試概要(募集要項)については東京医科歯科大学のホームページをご参照下さい(<http://www.tmd.ac.jp/admissions/graduate-school/index.html>)。

3) 研修の週間計画

基幹施設（東京医科歯科大学 消化器・一般外科 肝胆膵グループ例）

	月	火	水	木	金	土	日
7:30~8:30 合同外科術前カンファレンス							
7:30~8:30 合同外科術後カンファレンス							
8:00~9:00 抄読会							
7:45~8:30 教授回診							
9:00~15:00 外来							
手術							
18:00~20:00 放射線科合同カンファレンス							

連携施設（武蔵野赤十字病院の例）

	月	火	水	木	金	土	日
AM 上部内視鏡							
PM 下部内視鏡・透視							
8:00~9:00 抄読会							
15:00~病理カンファレンス							
16:00~腫瘍内科合同カンファ							
16:30~外科術前・術後カンファレンス							
手術							

4) 研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール

月	全体行事予定
4	外科専門研修開始。専攻医および指導医に提出用資料の配布。 日本外科学会学術集会（参加・発表） JATEC セミナー
5	研修修了者：専門医認定審査申請・提出
8	研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）
10	内視鏡外科セミナー（東京医科歯科大学主催）
11	消化器外科学会、臨床外科学会総会（参加・発表）

2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専攻医：研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成（年次報告）（書類は翌月に提出） ・ 専攻医：研修プログラム評価報告用紙の作成（書類は翌月に提出） ・ 指導医・指導責任者：指導実績報告用紙の作成（書類は翌月に提出）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ その年度の研修終了 <p>【研修ログ】</p> <p>研修プログラム統括責任者、研修メンターと個人面談・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専攻医：その年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出 ・ 指導医・指導責任者：前年度の指導実績報告用紙の提出 ・ 研修プログラム管理委員会開催

5. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

専攻医研修マニュアルの到達目標 1（専門知識）、到達目標 2（専門技能）、到達目標 3（学問的姿勢）、到達目標 4（倫理性、社会性など）を参照してください。

6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得（専攻医研修マニュアル-到達目標 3 -参照）

基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。

- ・ 放射線診断・病理合同カンファレンス：手術症例を中心に放射線診断部とともに術前画像診断を検討し、切除検体の病理診断と対比いたします。
- ・ Cancer Board：複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、内科など関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどによる合同カンファレンスを行います。
- ・ 基幹施設と連携施設による症例検討会：各施設の専攻医や若手専門医による研修発表会を毎年1月に大学内の施設を用いて行い、発表内容、スライド資料の良否、発表態度などについて指導的立場の医師や同僚・後輩から質問を受けて討論を行います。
- ・ 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。
- ・ 大動物を用いたトレーニング設備や教育DVDなどを用いて積極的に手術手技を学びます。

・日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、e-learning、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。

- 標準的医療および今後期待される先進的医療
- 臨床研究
- 医療倫理
- 医療安全
- 院内感染対策

7. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらにえられた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

- ・日本外科学会定期学術集会に1回以上参加
- ・指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて （専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

- 1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）
 - ・医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。
- 2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること
 - ・患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を目指します。
 - ・医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。
- 3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること
 - ・臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。
- 4) チーム医療の一員として行動すること
 - ・チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
 - ・的確なコンサルテーションを実践します。

- ・他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。

5) 後輩医師に教育・指導を行うこと

- ・自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。

6) 保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること

- ・健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
- ・医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
- ・診断書、証明書が記載できます。

9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1) 施設群による研修

本研修プログラムでは東京医科歯科大学医学部附属病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成してします。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。大学だけの研修では稀な疾患や治療困難例が中心となり common diseases の経験が不十分となります。この点、地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得します。このような理由から施設群内の複数の施設で研修を行うことが非常に大切です。東京医科歯科大学外科研修プログラムのどのコースに進んでも指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮します。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、東京医科歯科大学医学部附属病院外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

2) 地域医療の経験（専攻医研修マニュアル-経験目標 3-参照）

地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

□□本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）が入っています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。

□□地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。

□□消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

10. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル-VI-参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。




専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専攻医研修マニュアルVIを参照してください。

11. 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である東京医科歯科大学医学部附属病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。東京医科歯科大学外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、事務局代表者、基幹病院の診療科の研修指導責任者、基幹病院外科病棟師長、および連携施設担当委員などで構成されます。

専門研修プログラムの作成、管理、改善などを行い、専攻医の研修全般の管理を行います。専門研修プログラム終了時に専攻医の修了判定の審査を行い、専門研修プログラム統括責任者が修了判定を行います。

専門研修プログラム管理委員会は専攻医、および専門研修指導医からの意見を集約し、専門研修プログラムや専門研修体制を継続して改善します。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。

	<p>専門研修プログラム統括責任者</p> <p>田邊 稔</p> <p>肝胆膵外科学分野教授・肝胆膵外科科長</p>
	<p>副専門研修プログラム統括責任者</p> <p>植竹 宏之</p> <p>総合外科学分野教授・腫瘍化学療法外科科長</p>
	<p>副専門研修プログラム統括責任者</p> <p>大友 康裕</p> <p>救急災害医学分野教授・救命救急センター長</p>

	副専門研修プログラム統括責任者 荒井 裕国 心臓血管外科学分野教授・心臓血管外科科長
	副専門研修プログラム統括責任者 大久保 憲一 呼吸器外科学分野教授・呼吸器外科科長
	副専門研修プログラム統括責任者 絹笠 祐介 消化管外科学分野教授・大腸肛門外科科長
	副専門研修プログラム統括責任者 小嶋 一幸 低侵襲医歯学研究センター長・胃外科科長
	副専門研修プログラム統括責任者 工藤 敏文 臨床研修センター准教授・末梢血管外科科長
	副専門研修プログラム統括責任者 中川 剛士 総合外科学分野講師・乳腺外科科長
	副専門研修プログラム統括責任者 岡本 健太郎 総合外科学分野講師・小児外科科長

1 2. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルズに配慮します。
- 3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

1 3. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領

域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

14. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

専攻医研修マニュアルVIIIを参照してください。

15. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

研修実績および評価の記録

外科学会のホームページにある書式(専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録)を用いて、専攻医は研修実績(NCD登録)を記載し、指導医による形式的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。

東京医科歯科大学外科専門研修プログラム管理委員会にて、専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

●専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

●指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

●専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに登録します。

●指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形式的評価を記録します。

16. 専攻医の採用と修了

採用方法

東京医科歯科大学外科専門研修プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会等を行い、外科専攻医を募集します。プログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『東京医科歯科大学外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。申請書は(1) 東京医科歯科大学外科のホームページ <http://www.tmd.ac.jp/med/surg/index.html> よりダウンロードするか、(2)電話で問い合わせ(東京医科歯科大学消化器・一般外科総合医局 03-5803-5255)、(3) e-mail で問い合わせ profsecretary.srg1@tmd.ac.jp、のいずれの方法でも入手可能です。

(一次募集)

- ・平成29年10月1日～11月15日 専攻希望者による登録期間
- ・平成29年11月16日～11月30日 書類選考、および面接
- ・平成29年12月1日～12月15日 採用検討期間

(二次募集)

- ・平成29年12月16日～平成30年1月31日 専攻希望者による登録期間
- ・平成30年2月1日～平成30年2月14日 書類選考、および面接
- ・平成30年2月15日～平成30年2月28日 採用検討期間

書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については東京医科歯科大学外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を、日本外科学会事務局および、外科研修委員会に提出します。

- ・専攻医の氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度
- ・専攻医の履歴書(様式15-3号)
- ・専攻医の初期研修修了証

修了要件

日本専門医機構が認定した外科専門研修施設群において通算3年(以上)の臨床研修をおこない外科専門研修プログラムの一般目標, 到達(経験)目標を修得または経験した者。(専攻医研修マニュアル VII 参照)

17. 修練施設紹介

<基幹施設>

東京医科歯科大学医学部附属病院



住所：東京都文京区湯島 1-5-45

病床数：750床

外科専門研修指導医：49名

外科年間手術件数（NCD登録2015年）：2367例

特徴：本プログラムの基幹施設 都市型大学病院。全領域の外科手術を網羅し、先進的な外科治療に取り組んでいる。都内随一の高度救命救急センター擁している。



<連携施設群>

総合病院土浦協同病院



住所：茨城県土浦市真鍋新町 11-7

病床数：917床

指導医数：9名

外科年間手術件数（NCD登録2015年）：1899例

特徴：平成28年3月より新病院開設。すべての疾患に対応する県最大規模の急性期総合病院。救命救急センターを要しており、Acute care surgeryを学ぶことができる。がん診療拠点病院でもあり癌の手術はもちろん、集学的な癌治療も経験できる。

大田西ノ内病院



住所：福島県郡山市西ノ内 2-5-20


病床数：1105床


指導医数：12名


外科年間手術件数（NCD登録2015年）：1775例


特徴：救命救急センター、がん診療拠点病院、基幹型臨床研修病院。


<p>武蔵野赤十字病院</p> 	<p>住所：東京都武蔵野市境南町 1-26-1 病床数：611 床 外科専門研修指導医：14 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：1579 例</p> <p>特徴：救命救急センター30 床を有し、消化器内科は全国有数の肝疾患専門施設。多くの急性期疾患、悪性疾患手術や腹腔鏡手術を積極的に行っている。</p>
<p>埼玉医科大学 総合医療センター</p> 	<p>住所：埼玉県川越市鴨田 1981 病床数：991 床 指導医数：26 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：2292 例</p> <p>特徴：高度救命センター、総合周産期母子医療センターを併設する埼玉県随一の Super General Hospital。地域がん診療拠点病院として、がん診療でも多くの症例数を誇る。消化器外科・一般外科領域では腹部救急・腫瘍外科の幅広い研修が可能。</p>
<p>東京都立大塚病院</p> 	<p>住所：東京都豊島区南大塚 2-8-1 病床数：500 床 指導医数：4 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：703 例</p> <p>特徴：小児外科学会教育関連施設。東京都がん診療連携協力病院であり、内分泌外科や呼吸器外科なども幅広く行っている。</p>
<p>東京都立広尾病院</p> 	<p>住所：東京都渋谷区恵比寿 2-34-10 病床数：478 床 指導医数：6 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：565 例</p> <p>特徴：大腸肛門学会、呼吸器外科学会の専門認定修練施設。腹腔鏡手術も積極手に行っている。</p>
<p>東京都立松沢病院</p> 	<p>住所：東京都世田谷区上北沢 2-1-1 病床数：898 床 指導医数：1 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：89 例</p> <p>特徴：精神疾患で日本有数の基幹病院。その外科疾患を一手に担う。</p>
<p>東京都保健医療公社 豊島病院</p> 	<p>住所：東京都板橋区栄町 33-1 病床数：470 床 指導医数：9 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：9545 例</p> <p>特徴：癌と救急疾患を主体としたオーソドックスな診療と内視鏡検査を外科医師が行う。熱心な外科指導には定評がある。</p>

<p>東京都保健医療公社 大久保病院</p> 	<p>住所：東京都新宿区歌舞伎町 2-44-1 病床数：304 床 指導医数：7 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：725 例 特徴：大都市の中核病院としてあらゆる外科疾患を扱う。末梢血管外科に強いことも特徴の 1 つ。</p>
--	--

<p>江戸川病院</p> 	<p>住所：東京都江戸川区東小岩 2-24-18 病床数：418 床 指導医数：6 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：1174 例 特徴：地域に根ざした総合病院。急性疾患から癌治療まで数多くの経験ができる研修病院である。</p>
--	--

<p>JA とりで総合医療センター</p> 	<p>住所：茨城県取手市本郷 2-1-1 病床数：414 床 指導医数：3 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：514 例 特徴：取手地区の地域基幹病院。救急疾患から癌治療、内視鏡検査まで幅広い研修が可能である。</p>
--	---

<p>友愛記念病院</p> 	<p>住所：茨城県古河市東牛谷 707 病床数：325 床 指導医数：10 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：939 例 特徴：がん拠点病院。地域の中核病院で外科が内科系疾患まで含めて消化器全般をカバーするアクティブな病院。</p>
---	--

<p>新渡戸記念中野総合病院</p> 	<p>住所：東京都中野区中央 4 丁目 59 番 16 号 病床数：283 床 指導医数：4 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：623 例 特徴：東京の賑やかなベッドタウン中野駅の近くに位置する。中堅のスタッフも充実しており、濃い研修ができる地域中核病院。</p>
--	--

<p>東芝病院</p> 	<p>住所：東京都品川東大井 6-3-22 病床数：308 床 指導医数：3 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：75 例 特徴：地域に根ざした総合病院。先進的な内視鏡外科手術に積極的に取り組む一方で、オーソドックスな手術もしっかりと行い、肝胆膵外科系の手術も多い。</p>
<p>花と森の東京病院</p> 	<p>住所：東京都北区西ヶ原 2-3-6 病床数：134 床 指導医数：4 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：302 例 特徴：都心の地域医療を行う中で、外科に関わる様々な診療を行う。</p>
<p>柏市立柏病院</p> 	<p>住所：千葉県柏市布施 1-3 病床数：200 床 指導医数：2 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：160 例 特徴：柏地区の地域中核病院。外科に関わるあらゆる疾患に対応する地域密着型の診療を行っている。外科医の果たす役割の多さを実感する病院。院長が外科医であり、その指導には定評がある。</p>
<p>三島総合病院</p> 	<p>住所：静岡県三島市谷田字藤久保 2276 病床数：163 床 指導医数：2 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：257 例 特徴：新進気鋭の外科部長とスタッフを派遣し、現在急上昇で症例数が増加している。風光明媚な立地と、美食があり、充実した研修が期待できる。</p>
<p>等潤病院</p> 	<p>住所：東京都足立区一ツ家 4-3-4 病床数：164 床 指導医数：4 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：394 例 特徴：社会医療法人として救急医療などの地域に必要な医療を担う公益性の高い病院が特色。内視鏡治療（ESD, ERCP）、腹腔鏡手術、血管カテーテル治療なども積極的に行っている。</p>
<p>桜ヶ丘中央病院</p> 	<p>住所：埼玉県深谷市国済寺 408-5 病床数：床 指導医数：3 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：186 例 特徴：新病院に移転し外科スタッフも充実した。腹腔鏡技術認定医も在籍しており、多彩な研修を受けることができる。</p>

<p>蓮田病院</p> 	<p>住所：埼玉県蓮田市根金 1662-1 病床数：353 床 指導医数：7 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：1369 例 特徴：大腸手術の第一人者が院長に就任。消化器外科分野の充実が図られた。地域密着型の病院であらゆる外科疾患の研修が可能。</p>
<p>なめがた地域総合病院</p> 	<p>住所：茨城県行方市井上藤井 98-8 病床数：230 床 指導医数：2 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：142 例 特徴：地域医療という点で、あらゆる外科疾患にオールラウンドに対応する力が求められる。外科の総合診療という点でよい研修ができる病院。</p>
<p>秀和総合病院</p> 	<p>住所：埼玉県春日部市谷原新田 1200 病床数：350 床 指導医数：3 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：738 例 特徴：肝胆膵領域の悪性腫瘍が多く、胃癌・大腸癌の腹腔鏡手術、内視鏡手術も多い。透析患者のシャント造設や血管外科手術も多数扱う。</p>
<p>越谷誠和病院</p> 	<p>住所：埼玉県越谷市谷中町 4-25-5 病床数：195 床 指導医数：3 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：146 例 特徴：地域医療のなかで様々な外科疾患を扱う、地域密着型病院。</p>
<p>新潟県立十日町病院</p> 	<p>住所：新潟県十日町市高山 32 番地 9 病床数：275 床 指導医数：3 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：491 例 特徴：救急・急性期医療を中心に行う地域中核病院。がん疾患手術の他、血管カテーテル検査や治療、内視鏡治療（ESD）も積極的に行う。病院改築事業を進めている。</p>
<p>九段坂病院</p> 	<p>住所：東京都千代田区九段南 1-6-12 病床数：218 床 指導医数：4 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：143 例 特徴：H27 年 11 月九段下駅至近に新病院開院。各種消化器疾患の腹腔鏡手術（とくに鼠径ヘルニア）、血管外科疾患の他、食道・胃・大腸早期がんの ESD にも力を入れている。</p>

<p>草加市立病院</p> 	<p>住所：埼玉県草加市草加 2-21-1 病床数：380 床 指導医数：3 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：949 例 特徴：草加市及び周辺地域の医療を担う中心的な病院。内視鏡外科手術も含めて先進的な治療を取り入れ、あらゆる外科疾患に対してアクティブな診療を行っている。実力派外科スタッフを擁し、充実した研修でも有名。心臓・脳血管センターを併設しており、救急医療も積極的に行っている。</p>
<p>日産厚生会玉川病院</p> 	<p>住所：東京都世田谷区瀬田 4-8-1 病床数：389 床 指導医数：6 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：949 例 特徴：東京 23 区内で最大しかも増加の人口を持つ世田谷区で基幹的な医療を行っている。全国的に有数な鼠径ヘルニア症例で腹腔鏡下手術修練を行い、消化器外科全般における腹腔鏡手術の展開へつなげている。</p>
<p>光仁会 第一病院</p> 	<p>住所：東京都葛飾区東金町 4-2-10 病床数：137 床 指導医数：3 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：132 例 特徴：大腸癌研究会会長 杉原健一院長の下、先進的な大腸癌診療を行っている。腹腔鏡手術にも力を入れている。</p>
<p>済生会横浜市東部病院</p> 	<p>住所：神奈川県横浜市鶴見区下末吉三丁目 6 番 1 号 病床数：560 床 指導医数：12 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：2138 例 特徴：がん診療拠点病院。消化器外科は救急科とクロスオーバーしており、外科・救急が 1 ユニットとして診療を行っており、外傷・救急外科疾患にも幅広く対応している。</p>
<p>藤沢市民病院</p> 	<p>住所：神奈川県藤沢市藤沢 2-6-1 病床数：536 床 指導医数：7 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：1065 例 特徴：地域がん診療拠点病院、救命救急センターが併設されており、地域の中核病院としてがん治療と救急医療を積極的に行っている。</p>
<p>船橋市立医療センター</p> 	<p>住所：千葉県船橋市金杉 1 丁目 2 1 番 1 号 病床数：449 床 指導医数：11 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：1434 例 特徴：千葉県東葛南部地域の救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、外科診療としては癌の手術や Acute care surgery の症例数が多い。</p>


<p>国立病院機構 東京医療センター</p> 	<p>住所：東京都目黒区 東が丘2丁目5-1 病床数：780床 指導医数：15名 外科年間手術件数（NCD登録2015年）：2119例</p> <p>特徴：がん診療拠点病院であるが、緊急手術も積極的に行っており多様な外科手術に対応している。腹腔鏡手術にも力を入れおり、H26からは手術支援ロボット（ダビンチ）による胃がん手術も行っている。臨床研修指定病院のため若手医師の教育体制も充実している。</p>
<p>千葉労災病院</p> 	<p>住所：千葉県市原市辰巳台東2-16 病床数：400床 指導医数：12名 外科年間手術件数（NCD登録2015年）：1205例</p> <p>特徴：H26年新病院完成。高度な肝胆膵手術症例が豊富であり、胃・大腸における腹腔鏡手術、緊急手術も積極的に行っている。がん診療拠点病院。</p>
<p>国立病院機構 水戸医療センター</p> 	<p>住所：茨城県東茨城郡 茨城町桜の郷280 病床数：500床 指導医数：12名 外科年間手術件数（NCD登録2015年）：1220例</p> <p>特徴：消化器、呼吸器、乳腺、甲状腺、内視鏡下手術、救急など幅広い領域の外科手術を扱っている。がん診療拠点病院。救命救急センターが併設されている。</p>
<p>医療法人社団永生会 南多摩病院</p> 	<p>住所：東京都八王子市散田町3-10-1 病床数：170床 指導医数：4名 外科年間手術件数（NCD登録2015年）：405例</p> <p>特徴：H24年新棟院完成、H25本館リニューアル。救急・急性期医療を中心に行う地域中核病院。がん疾患手術の他、血管カテーテル検査や治療、内視鏡治療も積極的に行う。</p>
<p>青梅市立総合病院</p> 	<p>住所：東京都青梅市東青梅4-16-5 病床数：562床 指導医数：7名 外科年間手術件数（NCD登録2015年）：1064例</p> <p>特徴：西多摩地区の美しい自然環境に恵まれた病院。国の救命救急センターの指定を受け、二次、三次救急に対応しヘリ救急にも本格的に取り組んでいる。心臓血管外科はほぼすべての心疾患に対応している。</p>
<p>横浜市立みなと赤十字病院</p> 	<p>住所：神奈川県横浜市 中区新山下3丁目12-1 病床数：584床 指導医数：8名</p> <p>外科年間手術件数（NCD登録2015年）：1469例</p> <p>特徴：横浜市立であり日本赤十字社が指定管理を行う横浜市南部の中核病院。救急車の受け入れ台数は12500台（受け入れ99%以上）と日本でも際立つ存在。</p>

<p>JA 長野厚生連 北信総合病院</p> 	<p>住所：長野県中野市西1丁目5番63号 病床数：499床 指導医数：6名 外科年間手術件数（NCD登録2015年）：671例</p> <p>特徴：長野県北信地域の基幹病院。平成27年新棟開設し、病棟・手術室を一新。消化器疾患の殆どを腹腔鏡手術で施行し、乳腺・甲状腺・小児外科領域まで幅広い診療を行う。</p>
<p>横須賀共済病院</p> 	<p>住所：神奈川県横須賀市米が浜通1丁目16 病床数：747床 指導医数：12名 外科年間手術件数（NCD登録2015年）：1895例</p> <p>特徴：三浦半島の基幹病院として、年間6500例の手術を行っている。病床数は735床、救命救急センターがあり、がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院の指定を受けている。また米海軍病院との合同カンファレンスがあることが特色。</p>
<p>町田市民病院</p> 	<p>住所：東京都町田市旭町2丁目15番41号 病床数：447床 指導医数：5名 外科年間手術件数（NCD登録2015年）：1065例</p> <p>特徴：人口42万の町田市唯一の公的病院であり、急性期医療を担う地域の中核病院。循環器内科と心臓血管外科の連携が非常に密であり、ハートチームとして協力しながら治療を進めている。</p>
<p>榊原記念病院</p> 	<p>住所：東京都府中市朝日町3-16-1 病床数：320床 指導医数：7名 外科年間手術件数（NCD登録2015年）：1643例</p> <p>特徴：循環器に特化した病院として心臓血管外科手術において日本トップクラスの症例数を誇る。新専門医制度開始に伴い東京医科歯科大学との連携をスタート。心臓血管外科を主体とする充実した研修プログラムを提供する。</p>
<p>亀田総合病院</p> 	<p>住所：千葉県鴨川市東町929番地 病床数：917床 指導医数：16名 外科年間手術件数（NCD登録2015年）：2499例</p> <p>特徴：370年の歴史を持つ千葉県南部の基幹病院。優れた人材、高精度機器を導入・駆使し、急性期医療を担っており、集中治療部門（ICU、CCU、ECU、NCU、NICU）を整備し急性期高度医療の提供に力を注いでいる。</p>

<p>心臓血管研究所付属 病院</p> 	<p>住所：東京都港区西麻布 3-2-19 病床数：74 床 指導医数：2 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：211 例</p> <p>特徴：都心の循環器専門病院、予定手術はもとより、大動脈スーパーネットワーク重点施設に認定され、緊急手術にも幅広く対応。大動脈弁形成術については積極的にやっている。CVIARO も併設し、臨床研究にも力を注いでおり、臨床と研究バランスよくやっている。</p>
<p>東京共済病院</p> 	<p>住所：東京都目黒区中目黒 2 丁目 3 番地 8 号 病床数：331 床 指導医数：6 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：981 例</p> <p>特徴：地域の患者さんを中心に、呼吸器外科では診断・治療を呼吸器内科と行っている。抗がん剤治療から感染症まで呼吸器に関するありとあらゆる疾患を経験できる。</p>
<p>聖路加国際病院</p> 	<p>住所：東京都中央区 明石町 9-1 病床数：520 床 指導医数：22 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：2755 例</p> <p>特徴：臨床研修病院としても日本屈指の病院。呼吸器センターとして 2014 年より一新し、手術件数は急増し年間 150 件以上行っている。完全鏡視下手術から拡大手術まで幅広い手術を行っている。</p>
<p>地域医療機能推進機構東京山手メディカルセンター</p> 	<p>住所：東京都新宿区百人町 3-22-1 病床数：418 床 指導医数：15 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：3708 例</p> <p>特徴：旧社会保険中央病院が 2014 年 4 月から名称を変更。“社保中”という旧名称は非常に有名。肛門疾患を扱う大腸肛門科は全国から患者さんが集うほど有名。呼吸器外科も経験豊富な指導医により多種の疾患に対応している。</p>
<p>立川相互病院</p> 	<p>住所：東京都立川市錦町 1 丁目 1 6-1 5 病床数：350 床 指導医数：7 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：660 例</p> <p>特徴：以前より臨床研修病院の役割を担ってきた。2016 年 12 月に立川駅北口に新病院建設移転予定で、診療の幅が広がることが見込まれる。呼吸器外科の歴史を知るようなベテラン医師によりあらゆる疾患に対応している。</p>

<p>愛知県がんセンター 中央病院</p> 	<p>住所：愛知県名古屋市 千種区鹿子殿 1-1 病床数：500 床 指導医数：17 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：1663 例</p> <p>特徴：中部地域のがん専門病院として全国的にも有名。臨床のみならず研究も非常に盛んで、呼吸器外科は経験豊富な多数のスタッフにより指導を受けることができる。</p>
<p>さいたま赤十字病院</p> 	<p>住所：埼玉県さいたま市中央区上落合 8-3-3 3 病床数：605 床 指導医数：12 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：1432 例</p> <p>特徴：当科より内視鏡外科技術認定医の外科部長を派遣しており、内視鏡外科技術認定医取得のための拠点としている。</p>
<p>横浜労災病院</p> 	<p>住所：神奈川県横浜市 港北区小机町 3 2 1 1 病床数：650 床 指導医数：13 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：1721 例</p> <p>特徴：地域基幹病院としてアクティブな外科診療を行っている。ベテラン外科スタッフが多く、手厚い指導が受けられる。</p>
<p>国立がん研究センター 中央病院</p> 	<p>住所：東京都中央区築地 5-1-1 病床数：600 床 指導医数：22 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：2677 例</p> <p>特徴：全国屈指のがん専門病院。あらゆる領域で日本の癌治療をリードする病院。伝統あるレジデント制度による外科研修に定評がある。</p>
<p>国立がん研究センター 東病院</p> 	<p>住所：千葉県柏市柏の葉 6-5-1 病床数：425 床 指導医数：19 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：2216 例</p> <p>特徴：中央病院と並んで全国屈指のがん専門病院。あらゆる領域で日本の癌治療をリードする病院。同じくレジデント制度が有名。</p>
<p>浜松労災病院</p> 	<p>住所：静岡県浜松市東区将監町 2 5 病床数：312 床 指導医数：6 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：562 例</p> <p>特徴：浜松地区の地域中核病院。この地区のあらゆる外科疾患を経験できる。積極的に内視鏡外科手術も行っていることも特徴のひとつ。</p>

<p>静岡がんセンター</p> 	<p>住所：静岡県駿東郡 長泉町下長窪 1007 病床数：615 床 指導医数：25 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：2274 例</p> <p>特徴：先進的な腹腔鏡手術をはじめ日本をリードするがん専門病院の1つ。濃厚なレジデント制度を持ち、手厚い外科研修ができる。</p>
<p>NTT 東日本関東病院</p> 	<p>住所：東京都品川区東五反田 5-9-2 2 病床数：665 床 指導医数：10 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：1606 例</p> <p>特徴：全国的にも有名な初期臨床研修病院。分厚い外科スタッフを擁し、腹腔鏡手術から開腹手術まで、各分野で先進的な外科研修が行える。</p>
<p>川崎幸病院</p> 	<p>住所：神奈川県川崎市 幸区大宮町 31-27 病床数：326 床 指導医数：14 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：2072 例</p> <p>特徴：全身の血管病の総合的な診断・治療を行うセンターを擁し、心臓・大動脈・末梢血管にわたり幅広く濃密な研修を行うことができる。</p>
<p>守谷慶友病院</p> 	<p>住所：茨城県守谷市 980-1 病床数：178 床 指導医数：3 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：597 例</p> <p>特徴：血管外科をリードされてきた、岩井武尚名誉教授が血管外科センター長を務めており、現在も精力的に先進的な血管外科診療を行っている。</p>
<p>お茶の水血管外科クリニック</p> 	<p>住所：東京都千代田区神田駿河台 2-1-4 ヒルクレスト御茶ノ水 5 階 病床数：0 床 指導医数：1 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：2449 例</p> <p>特徴：下枝静脈瘤、末梢血管疾患に特化した日帰り手術を行う外科クリニック。全国的にも有名で専門性の高い高度な血管外科治療を行っている。</p>
<p>大崎病院 東京ハートセンター</p> 	<p>住所：東京都品川区北品川 5-4-12 病床数：90 床 指導医数：3 名 外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：315 例</p> <p>特徴：2005 年に開設された新進気鋭の心臓・血管病の専門病院。豊富な症例数と専門に特化した高い技術力を誇る。</p>

<p>新宿外科クリニック</p>	<p>住所：東京都新宿区西新宿 3-1-4 第2 佐山ビル 5F</p>
	<p>病床数：0 床</p>
	<p>指導医数：名</p>
	<p>外科年間手術件数（NCD 登録 2015 年）：例</p>
	<p>特徴： 下肢静脈留、鼠径ヘルニア、痔核を対象とした日帰り手術専門クリニック。</p>

18. 専攻医体験談



名前：五木田 憲太郎

卒業年次：2010年

出身大学：山梨大学

初期臨床研修：東京臨海病院

専門診療科：胃外科（現在大学院3年）

外科専門研修プログラム3年修了時 NCD 登録数：1001 例（術者 535 例）

Q. 外科医を志したきっかけは？

手術を含め、処置など手技が多いことと、癌の患者さんを、術前から術後の化学療法まで一貫してみることができるところに魅力を感じ、外科を選択しました。

Q. 東京医科歯科大学外科専門研修プログラムの魅力は？

大学と関連病院2か所以上を必ず回ることができ、それぞれの病院で治療方針や手術の方法も様々で、とても勉強になりました。

Q. これから外科を志す人にメッセージを

外科は大変なところもありますが、とてもやりがいのある仕事だと思います。もし少しでも外科を考えていらっしゃるならば、ぜひ外科を選択して頂きたいです。後悔することは無いと思います。

名前：高岡亜弓

卒業年次：平成24年卒

出身大学：東京医科歯科大学

初期臨床研修：草加市立病院、東京医科歯科大学医学部附属病院

サブスペシャリティ：大腸肛門外科

3年でのプログラム中の手術経験数：804 例（術者 587 例）

Q. 外科医を志したきっかけは？



私は学生実習で外科をローテートした際に、侵襲の大きな手術を行っても、嚴重な全身管理ののちに元気に退院していく患者さんを見て、外科を志すようになりました。自分自身の手で治療しているという実感が得られることで、やりがいにつながると思ったからです。

Q. 東京医科歯科大学外科専門研修プログラムの魅力は？

後期研修の段階で環境の異なる2か所の病院で研修できることが魅力であると思います。私の場合ははじめに common disease も多く経験でき、手厚い指導が受けられる中規模病院で研修し、次に、より専門的な研修が受けられる大規模病院で研修できています。どの病院も症例数が多く、アットホームな労働環境で非常に働きやすいです。

Q. これから外科を志す人にメッセージを

見ているだけの手術と、実際に自分が術者となって行う手術は大きく異なります。是非、実際に手術をして、このやりがいを実感してほしいと思います。私はまだまだ半人前ですが、どんなに経験を重ねても、外科領域には尽きることのない興味の対象があります。一緒にがんばりましょう。



名前：横山賢司
 卒業年次：平成 20 年
 出身大学：浜松医科大学医学部
 初期臨床研修：東京医科歯科大学
 サブスペシャルティ：心臓血管外科
 外科研修 3 年間で一般外科手術件数：488(術者 172)

Q. 心臓血管外科医を志したきっかけは？

私は医師を志した頃から外科は診断より治療に重点をおいていると感じており、外科医になりたいと憧れていました。学生時代の臨床実習で心臓血管外科をローテートした際、心臓を止めたり動かしたりするダイナミックな手技と、それと相反するような弁置換や冠動脈バイパスの繊細さや美しさが、手術の流れの中に共存していることに魅了されました。この学生時代の経験が大きなきっかけだったと思います。さらに初期研修で心臓血管外科をローテートした際は、周術期管理のモニタリング法や処置の多様さにも興味を惹かれ、最終的に心臓血管外科医への道を決断しました。

Q. 東京医科歯科大学専門研修プログラムの魅力は？

大学と関連病院は非常に密接な連携を取ってプログラムを運営しており、修練医にはそれぞれの習得段階に応じて、次のステップに進むための臨床経験や手術手技、また学会・論文発表などの機会を与えられます。これにより次の段階に進もうという意欲が強まります。与えられた課題をこなせば、それに対する指導と次の段階の課題が与えられ、心臓血管外科医として独り立ちするために一段階ずつステップアップしていく育成の環境が整っていると思います。その環境を糧に成長できるか否かは自分の取り組み方に大きくかかっている、と日々の診療で感じています。

Q. これから心臓血管外科を志す人にメッセージを

心臓血管外科は外科系診療科の中で術者として独立するのに最も長い年月を要するようには思いますが、様々な経験から得られる予測能力や多様な手技の積み重ねがなければ、手術や周術期管理で突然大きな合併症を起こすこともあり得る critical な診療科だと考えています。それだけに術後に患者さんが術前より QOL を上げて退院・外来通院される姿を拝見するときは本当にうれしく思えます。道のりは長いと思いますが、他では得られないやりがいのある診療科です。やる気と根気のある先生方に是非参加して頂きたいと思います。



名前：分島 良
 卒業年次：平成 22 年卒
 出身大学：埼玉医科大学
 初期臨床研修：東京医科歯科大学医学部附属病院
 サブスペシャルティ：呼吸器外科
 3 年間でプログラム中の手術経験数：649 例（術者 312 例）

Q. 外科医を志したきっかけは？

学生の頃は、救命救急医や総合診療内科のような漫然となんでもできる医師になりたいという思いがありました。ただ、実際に医師になってみると、もともと手先を使った細かいことが好きだったこともあり、頭をフル回

転させる科よりも自分の手技や技術が治療の一端を担える外科に自分の適性を感じました。その中でも、腫瘍を扱う academic な側面を持ち、手術においても繊細かつダイナミックな呼吸器外科の世界に魅了されました。

Q.東京医科歯科大学外科専門研修プログラムの魅力は？

3年目は専門を目指す呼吸器外科から一旦離れ、J A とりで総合医療センターにて消化器外科医として1年間の研修を行いました。外科手技一般から消化器悪性腫瘍手術、内視鏡まで経験させていただきました。消化器外科を志す同期や先輩方と分け隔てなく指導していただき、外科医として成長できた日々だったと感じます。現在は、聖路加国際病院呼吸器外科シニアレジデントとして診療させていただいています。医局の垣根を超えてフレキシブルに研修可能なところが当外科研修の最大の魅力であると考えます。

Q.これから外科を志す人にメッセージを

外科医は時に忙しく、時につらい仕事に映るかもしれませんが、でも実際は、外科医はみんな好んでこの仕事をしています。それだけやりがいのある仕事だと日々感じます。メスをもって初めてわかる楽しさがそこにはあります。勇気をもって外科の世界に飛び込んで来てください。



名前：小島光暁

卒業年次：平成18年卒

出身大学：高知大学

初期臨床研修：東京医科歯科大学医学部附属病院

サブスペシャリティ：外傷/救急外科、集中治療

3年間のプログラム中の手術経験数：419例（術者320例）

Q. 外科医を志したきっかけは？

私が研修医1年目の時に、当院の救命救急センターが発足しました。そこで、外傷や急性腹症に対して初期治療、緊急手術から術後管理まで一貫して行う自己完結型の救急医療を経験しました。一方、研修医2年目に地方中核病院で研修した際には、夜間の人員不足や専門医不在などで救急患者を断らざるを得ない状況を目の当たりにしました。昨今の報道でも問題視されているように、外傷やショック状態で緊急手術が必要な患者さんにとっては、搬送先が決まらないこと（医師不足によるたらい回し）は予後不良と直結します。私は、外科医としてのサブスペシャリティをもった救急医の充実が、この問題の解決につながると考え当プログラムを選択しました。

Q.東京医科歯科大学外科専門研修プログラムの魅力は？

私は、卒後3年目に当院救命救急センターで勤務した後に、関連施設での外科研修を修了して外科専門医を取得しました。救命救急センターと外科関連施設のローテーションにより、一般消化器、胸部、末梢血管、外傷外科や感染創のデブリマンなど、common disease から希な症例まで幅広く学ぶことができました。当院では、3次救急を含む年間約8000台救急車を受け入れているため、手術だけでなく初期診断/治療や集中治療も豊富に経験できます。また、ドクターカーによる病院前救急や災害医療にも力を入れており、災害派遣（DMAT）や off the job training（BLS, ACLS, JATEC）など病院外で活躍する機会も多くあります。

当院は基礎、臨床を問わず研究の指導体制も整っており、個人の希望に応じて、研修プログラム修了後の大学院進学や海外留学といった選択肢もあります。私自身も、大学院4年次から海外留学の機会を頂いて、現在、米国のカリフォルニア大学サンディエゴ校で出血性ショックや敗血症後に生じる多臓器不全の研究をしています。研究活動や海外留学のサポートは、大学ならではの魅力の一つであると言えます。

Q.これから外科を志す人にメッセージを

救急初期診療、緊急手術（救急/外傷外科）及び術後集中治療を三位一体で実践する外科分野を Acute Care Surgery と呼びます。生命の危機に瀕した重症患者さんを救命することは、外科医の原点とも言える魅力溢れる分野です。最近、日本でも Acute Care Surgery 学会が発足し、外科、救命救急の垣根を超えて多くの医師が参加しています。他の外科領域に比べると、新しい分野ですので、これから外科医を目指す皆様にとっても十分に活躍のチャンスがあると思います。救急、外傷、災害医療などに興味のある方はもちろん、まだ外科のサブスペシャリティを決めかねている先生方にとっても、貴重な経験が出来るプログラムだと思います。多くの方の参加をお待ちしております。

<問い合わせ先>

東京医科歯科大学外科専門研修プログラム管理委員会

電話：03-5803-5255（東京医科歯科大学消化器・一般外科総合医局）

メール：profsecretary.srg1@tmd.ac.jp

ホームページ：<http://www.tmd.ac.jp/med/surg/index.html>

見学、個別相談など随時受け付けます。

説明会の日時などホームページで告知いたしますのでご覧下さい。